

ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは、ACTニュース編集部です。あっという間にみかんがおいしい季節の到来ですね。秋のACTは例年の盛況ぶりから「湯フェス」とも称される3年生最後のワークも実施しました。今秋のACTの模様を、ぜひあたたかい部屋でのんびりとご一読ください。

ACT NEWS 第2号 令和元年12月発行発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

ACTってなーに？2

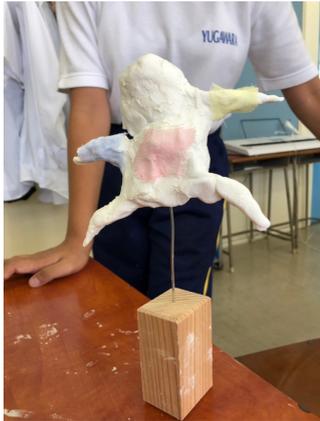
前回のこのコーナーではACTという活動のそもそもの部分についてお話をしました。そこではACTはアート・コミュニケーション・トレーニングの略で、「人と人とが関わりながら生きていくために」をテーマとする湯河原町発のコミュニケーション教育のひとつであること。それはアートを教える授業ではなく、芸術体験を通じて生きていくための力を学ぼうとするもので、そこでは試行錯誤や紆余曲折、つまり「トライ・アンド・エラー」が創造的な行為として推奨されているということ。そして、この活動を通じて「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える、そういう「自分への信頼感＝本当の意味での自信」を育むことを目指しており、先生方にとっては生徒やクラスの「今」や「変化」を観察したり、見守ったりする時間になっていることなどについてお伝えしました。

これらのことから、ACTでは5つの目的を掲げています。

- ①ACTでの活動を通じて、生徒が自分自身の「感性」に気づき、他者との交流や共同作業を通じて「表現」を交換していくこと。またその楽しさを共有することで、小さな達成感を積み上げていくこと。
- ②これらを通じて生徒たちのコミュニケーションのチャンネルを緩やかに開いていくこと。
- ③その結果として自己を肯定すること（愛すること）を知り、また他者を肯定することを実感すること。
- ④それによって場に参与し、そのことに自らで意味を見出していけるようになっていくこと。
- ⑤教師は通常授業と異なる場面設定において、生徒が何を感じ、考え、どのように活動するのかを観察することで、一人ひとりを「再発見」していくこと。またそこから「生徒が見ている風景」を感じようとする（感性の共鳴）。それを当日のシェア会議で交換し、日々の指導に還元しようとする。

この取り組みによる経験によって、生徒たちの日常や生活に向かう態度に少しずつでも自発性や積極性が育ち、できる／できないという機能性による自己実現だけでなく、過程そのものに意味や価値、楽しさを見出すことができ、それらが各人の自己肯定感、他者との合意形成力、社会へと繋がっていく力へと育っていくことを願うものです。

とぶからだ。



2019年9月3日火曜日の8組のみなさんと。

今回は紙粘土を使った立体造形でした。手で自由自在に形を変えられる柔らかな紙粘土を相手にしたみなさん。試行錯誤をひたすらくり返す作業を真剣に、たのしんで取り組んでいる人が多くいたようでした。また、作業が終わったあとで感想を聞いてみると「むずかしかった」という生徒さんが何人かいました。

ダンボールハウス。

ACTの集大成とも言えるこのワーク。先生や保護者の方が集めてくださったダンボール（いつもありがとうございます！）を使ってクラスで1つの家を作ります。事前の話し合いも設計図もないという大変無茶なワークですが、その分いろんなやりとりが展開するエネルギッシュな時間。

今回おどろいたのは、どのクラスも開始直後ほぼ全員がいつせいにドワッと壁を作りはじめたことです。これまで何度もダンボールハウスづくりを実施していますが、こんなことは一度もなかったのでびっくり。もうひとつは、クラスの家それぞれに独自性がハッキリと現れたことでした。シェアの場で先生から聞いた話では「今まで誰も作っていないものを作る！」と意気込んでいた生徒がいた」とのこと。また、その場にあるものはすべて素材と考え工夫して利用する人も多く見受けられました。とても創造的でした。

集団というものは「一丸となる」ことを求められたりして、自由にできず窮屈なこともあったりします。でもみんなを見ていると、真剣な人もいれば遊んでる人もいるのになぜか一体感がある。

形にしてみても元に戻して、また形にしてみただけでなんか違う…また戻して…という作業をくり返すというのは、「何度でもやりなおせる」からできることなのですが、裏を返すとそれは「何度でもやりなおせてしまう」ということでもあるわけです。つまり、「どこかで決めないといけない」作業なんです。この「これだ！」というところにたどり着く大変さを感じる生徒さんもいたのではないのでしょうか。どんな形にでもできるという自由さを受け取って、それをどんな形にするかは自分次第。あれこれ迷いながらも、自分で形を決めるところにたどり着けたみなさん、立派です。あるいは終わりの時間がやって来て、たまたま行き着いた形でゴールしたみなさんも立派です。最後まで迷い続けるというのはとてもエネルギーのいることだから。どちらも大変だったと思います。



2019年9月18日水曜日の3年生たちと。

彼らの不思議な一体感を見ていると、「そうか、誰かと安心して過ごせる空間にいるから、好き勝手にできるのかもしれない」と思えてきます。ある人は「こうしたい！」とガツガツ作る。ある人はみんなが作っている家の中で(外ではないということがポイント)ごろごろ寝転んでいる。でも「これがフツーです」というみんなの感じ。うらやましいです、そういうクラス。そういう集団。

からだからかんじる。

全12回あるワークの中で、身体に注目してトライする唯一のワークです。今年は「ふれる」ということをテーマに、ダンサーの上村なおかさんをお呼びして実施しました。

「ふれる」と聞くと手でさわわるイメージがありますが、ここでは全身を使って接触する感覚を確かめるように進んでいきます。「ダンスという言葉を書きで引くと、意識的に身体を動かすことと書いてあったりします。ダンサーだけでなく私たちは普段、自分の意思で身体を動かしていることや、全身で感覚しながら過ごしていることを忘れて生活していますよね、いちいち意識していたら大変ですから。だけどこの時間はそれを思い出してみたいと思います。」と上村さん。うーん…聞いただけではよくわからない…そう！それこそが身体ワークの醍醐味！とにかくやってみるしかない！

内容はシンプルですが、声かけの仕方が独特です。例えば「仰向けになって」ではなく「背中であぐらにふれて」と表現する。とる体勢が同じであっても、仰向けになるという言い方では背中であぐらにふれている感覚を意識しづらいのです。普段忘れていたことを思い出するための言葉遣いとでも言い

ましょうか。そういったことに気をつけたりもします。

身体ワークで必ず取り入れているのは他者にふれることです。中2生にとって誰かの身体にふれるということは気恥ずかしいものです。友達でもわざわざふれたりしないかもしれない。でも、ふれてみるとどうでしょう。皮膚の柔らかさにハッとしたりしませんか？お互い背中あわせで相手を感じとろうとすると、あれ？なんか小さい？丸い？骨？背中からじんわり温度が伝わってくる？そういう「自分が、相手が、ここに生きている感じ」みたいなものがそれぞれあったと思います。それは当然のことで、だから忘れてしまうこと。フツフツのことだけど、特別なこと。



2019年11月26日火曜日の2年生たちと。

ふちどって！



2019年11月29日金曜日の1年生たちと。

タイトルの通り、紙の真ん中にある図形のふちをオイルパステルを使ってひたすらふちどっていくとカラフルな年輪のような絵ができあがります。さっそく作業に向かってもらいましたが、とたんに驚くほどの静寂…。このワークは毎年実施していますが、全クラスがここまでの静寂をつくって集中した学年は初めてでした。その集中力は出来上がりを見てもよく伝わってきます。9割の生徒さんが細い線で緻密に描いていました。

あるクラスでは「うちのクラスはいつもうるさくてこんな静かになったことない！」と、生徒さんたちが驚いたほどです。

作業後は、作品を黒板に並べて鑑賞の時間。全員同じように図形をふちどっただけなのに、どれも違う絵になるところがこのワークのおもしろいところでもあり、私たちが伝えたいメッセージそのものでもあります。でもこれは決して「個性ってすばらしい、人と違うのはいいことだよ」という話ではなく「私たちはこんなにちがうんだね」ということなのです。良い悪いもなく、私たちは違って当たり前なのだという事。そして、その人の個性が自身を活かすこともあれば苦しめることだってある。単純に良いものだと言い切れないけど、かけがえのないものをそれぞれ抱えながら、今いっしょに生きている。だから「個性を大切に」。

授業後の先生方とのシェアの場面で「みなさん自然と他者を受け入れている雰囲気がありますね」と講師が伝えたところ、「そうなんです」と先生方も頷いていました。

ギミー・シェルター。

「自分が安心していただける空間、居心地の良い空間をつかって、そこでくつろいでみよう」をテーマに1人ひとつずつ、ダンボールを使って小部屋を作りました。生徒はそれぞれ自分のペースで制作をし、最後の20分はその空間でのんびり過ごしたり、友だちの空間に遊びに行ったり。最後に「小さな居心地の良い場所なら、どこでも自分で作れるんじゃないか？」っていうお話をしました。



2019年9月27日金曜日の教育支援教室のみなさんと。

ACT GALLERY

いい写真、たくさんあるんです。載せきれないだけで。

